

盛岡広域スポーツコミッションの設立について

平成29年2月13日

市 民 部

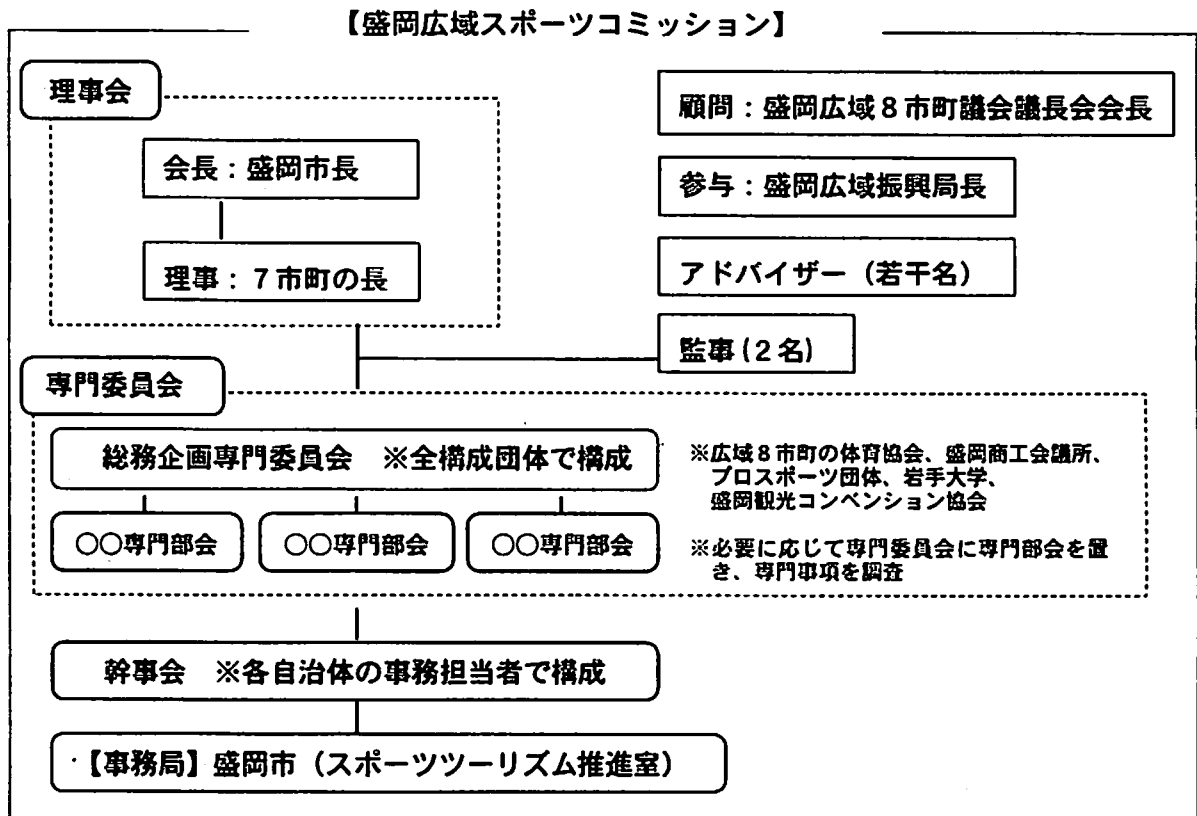
1 趣旨

盛岡広域圏が一体となってスポーツツーリズムを推進するため、広域圏において地域スポーツコミッション（盛岡広域スポーツコミッション、以下「盛岡広域SC」という。）を平成29年3月に設置する。

2 事業内容

- (1) スポーツ大会・スポーツ合宿の誘致
- (2) プロスポーツとの連携による地域活性化の促進
- (3) スポーツ施設の情報発信
- (4) スポーツ施設の共有化・適正配置の検討
- (5) スポーツを通じた広域連携施策の調査・研究（アンケート調査等）

3 組織体制



4 第一次盛岡広域スポーツツーリズム推進計画（案）（詳細は別紙1のとおり）

盛岡広域SCにおいて事業を推進するにあたり、「第一次盛岡広域スポーツツーリズム推進計画」を策定し、計画に基づき事業を実施する。

(1) 目的（基本方針）

「東日本大震災復興の架け橋」をスローガンとする希望郷いわて国体・希望郷いわて大会は大成功を収めた。私たちにはこの遺産を確実に未来に引き継いでいく責任がある。

盛岡広域8市町はそれぞれの自立性を尊重しつつ、相互に連携・協調してスポーツツーリズムの取組を通じた盛岡広域圏の魅力の発信と販わいの創出を図る。

(2) 計画期間

平成29年度（2017年度）から平成34年度（2022年度）までの6年間

(3) 基本的施策

施策1 スポーツによる交流人口の拡大

- ア スポーツ大会・スポーツ合宿の誘致
- イ 広域資源を活かしたスポーツイベントの検討
- ウ スポーツ情報の周知・広報

施策2 地域スポーツの推進

- ア プロスポーツとの連携
- イ スポーツ施設の共有化・適正配置

施策3 東京オリ・パラなどメガスポートイベントへの取組

- ア 東京オリ・パラ事前キャンプの誘致
- イ 地元オリンピック選手の輩出
- ウ 東京オリ・パラ開催に向けた機運醸成
- エ RWC2019や2018・2022冬季オリンピックへの取組

5 平成29年度の主な取組（詳細は別紙2のとおり）

- (1) 競技団体、大学、社会人実業団チームへの積極的な誘致活動
- (2) 盛岡広域のスポーツ施設やイベント情報を掲載したパンフレットの作成
- (3) 広域住民の意向調査によるスポーツ環境ニーズの把握
- (4) エイト・オリンピックズ・プロジェクトによる地域のオリンピック有力候補選手の周知・応援・育成の仕組みづくり
- (5) 東京オリ・パラ開催に向けた機運醸成のための研修会等の開催

6 今後のスケジュール

平成29年3月28日 盛岡広域SC設立

第一次盛岡広域スポーツツーリズム推進計画（案）

1 目的【基本方針】

「東日本大震災復興の架け橋」をスローガンとする希望郷いわて国体・希望郷いわて大会は大成功を収めた。私たちにはこの遺産を確実に未来に引き継いでいく責任がある。

盛岡広域 8 市町はそれぞれの自立性を尊重しつつ、相互に連携・協調してスポーツツーリズムの取組を通じた盛岡広域圏の魅力の発信と賑わいの創出を図る。

《スローガン》 ～スポーツの力が盛岡広域圏の未来を創る～

2 盛岡広域のスポーツツーリズムの基本的な考え方

スポーツツーリズムの推進及びスポーツ施設広域利用促進の取組は、盛岡広域の連携中枢都市圏構想である「みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン」の具体的施策に位置付けられており、取組により広域圏内のスポーツ資源をつなぐことで、人やモノの流れの活性化や広域住民のスポーツ活動機会の充実につながるものである。

また、スポーツツーリズムを効果的かつ効率的に推進するため、(仮称)盛岡広域スポーツコミッションが中心となって取り組むこととするが、いうまでもなく各市町が単独で取り組むスポーツツーリズム施策を妨げるものではない。

なお、本計画においては、国が進める外国人観光客誘致を中心とした“スポーツツーリズム”の枠を越えて、スポーツツーリズムを広義に捉え、スポーツを通じた賑わいの創出や地域振興に結びつく取組全般と定義する。

3 計画期間

ラグビーワールドカップ 2019™ (以下「RWC2019」という。)、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会 (以下「東京オリ・パラ」という。)のほか、2018 平昌冬季オリンピック及び 2022 北京冬季オリンピックの開催時期を見据え、計画期間は、平成 29 年度 (2017 年度) から平成 34 年度 (2022 年度) までの 6 年間とする。

4 基本的施策

基本方針に基づき、基本的施策を次のとおり定める。

【基本的施策】

- (1) スポーツによる交流人口の拡大
 - ア スポーツ大会・スポーツ合宿の誘致
 - イ 広域資源を活かしたスポーツイベントの検討
 - ウ スポーツ情報の周知・広報
- (2) 地域スポーツの推進
 - ア プロスポーツとの連携
 - イ スポーツ施設の共有化・適正配置
- (3) 東京オリ・パラなどメガスportsイベントへの取組
 - ア 東京オリ・パラ事前キャンプの誘致
 - イ 地元オリンピック選手の輩出
 - ウ 東京オリ・パラ開催に向けた機運醸成
 - エ RWC2019 や 2018・2022 冬季オリンピックへの取組

(1) スポーツによる交流人口の拡大

プロスポーツの試合等の観戦型のスポーツイベント、マラソン大会等の参加型のスポーツイベント等、大規模スポーツイベントの開催によりスポーツ観光客が増加することは、飲食・交通・宿泊・小売など観光関連産業の拡大に寄与し、地域経済の活性化につながるものであることから、盛岡広域のスポーツ施設を利用したスポーツ大会・スポーツ合宿の誘致活動や、広域の資源を活かしたスポーツイベントを開催し、交流人口の拡大を図る。

ア スポーツ大会・スポーツ合宿の誘致

スポーツ大会やスポーツ合宿の誘致にあたっては、中央競技団体のほか、大学や社会人実業団チーム等に対し、スポーツコミッション組織の構成団体それぞれが持つ既存の人脈・交渉ルートを活用するほか、新たな人脈・交渉ルートの構築を進め、ターゲットを明確にした戦略的な誘致活動に取り組む。

【具体的な内容】

- ・各自治体等の意見を反映した誘致交渉先の選定
- ・競技団体、大学、社会人実業団チームへの積極的な誘致活動
- ・競技団体等のニーズに対する広域での対応（スポーツ施設利用の調整等）

イ 広域資源を活かしたスポーツイベントの検討

これまでも各市町が地域特性や資源を生かして開催しているマラソン大会等のスポーツイベントを更に盛り上げるため、既存のスポーツイベント同士をつなぐことにより互いのイベントに参加者を呼び込み、交流人口の拡大を図る仕組みを検討する。

また、盛岡広域の強みである、豊富な自然資源やスキー場、温泉等の観光資源をつなぎ、新たな魅力を打ち出したアウトドアスポーツ等の体験型スポーツイベント等、盛岡広域が連携して取り組めるイベントを検討する。

【具体的な内容】

- ・広域連携によるスポーツイベントの検討
- ・既存のスポーツイベント同士を活用したコラボレーション企画の検討

ウ スポーツ情報の周知・広報

盛岡広域のスポーツ施設やスポーツイベント情報を集約し、盛岡広域のスポーツ環境を多様な媒体を用いて積極的にPRし、盛岡広域圏外からのスポーツ合宿やスポーツイベントに呼び込む。

【具体的な内容】

- ・盛岡広域のスポーツ施設やイベント情報を掲載したパンフレットの作成
- ・ホームページを活用した盛岡広域情報の発信

(2) 地域スポーツの推進

希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の開催は、スポーツ施設の充実、広域住民のスポーツに対する参加意欲の高まり、競技力の向上等、盛岡広域のスポーツ資源・スポーツ環境を向上させる大きな契機となり、スポーツによる地域の活性化が図られた。

この国体の成功により得られた成果や経験を一過性のものではなく継続的にスポーツの力をまちづくりに生かしていくため、国体を契機に整備された広域のスポーツ施設の有効利用やプロスポーツとの連携による選手と広域住民との交流機会の増加により、子どもから高齢者まで、各世代におけるスポーツ活動の推進に取り組むことで、広域住民の健康増進や青少年教育の向上の効果も期待できる。

ア プロスポーツとの連携

盛岡広域を本拠地とするプロスポーツチームが全国や国際舞台で活躍することは、多くの広域住民に感動を与えるとともに、スポーツへの関心の高まりや競技人口の拡大、競技力の向上等、地域スポーツの推進にもたらす影響は大きく、他の自治体でもプロスポーツがまちの賑わい創出や地域の一体感の醸成に寄与する多くの事例がある。

このため、盛岡広域においても、岩手・盛岡で活動しているBリーグの岩手ビッグブルズやJリーグのグルージャ盛岡など、地域のスポーツ資源であるプロスポーツチームへの支援を通じて連携を図り、プロスポーツチームの活躍や広域住民と選手とのふれ合いをきっかけとした地域の活性化に取り組む。

【具体的な内容】

- ・プロスポーツによるスポーツ教室や地域スポーツ大会への参加による広域住民との交流促進

イ スポーツ施設の共有化・適正配置

各市町それぞれがかかえる将来的な人口減少・少子高齢化による税収減・施設利用減に対応するためには、各市町が整備しているスポーツ施設を盛岡広域圏内で共有する仕組みづくりや、盛岡広域圏内のスポーツ施設の適正配置による効率的なスポーツ環境の整備が求められる。

広域住民がスポーツ施設を共有することで、各市町の施設整備状況に左右されず、利便性の向上やスポーツ活動機会の充実が図られ、また、盛岡広域圏内のスポーツ

施設の適正配置により、施設整備への投資軽減が期待できることから、住民の意向を確認しながら、盛岡広域圏内のスポーツ施設の有効活用策を検討する。

【具体的な内容】

- ・広域住民の意向調査によるスポーツ環境ニーズの把握
- ・広域住民がスポーツ施設を共有する仕組みづくり
- ・効率的かつ効果的なスポーツ施設の配置を図るための検討

(3) 東京オリ・パラなどメガスポーツイベントへの取組

世界最大のスポーツの祭典であるオリンピック・パラリンピックの開催は、交通インフラやスポーツ施設等のインフラ整備の促進、外国人観光客の増加による経済効果など、開催都市で起こる事象に注目が集まりやすいが、スポーツや健康に対する意識の向上、青少年の育成に対する好影響、国際感覚の醸成など、オリンピック・パラリンピックの開催都市にとどまらず、様々な影響をもたらすスポーツイベントであることから、東京オリ・パラ開催に対する広域住民の理解を深め、参画意欲を高めるための取組を行い、盛岡広域において東京オリ・パラの遺産を将来にわたり継承する。

ア 東京オリ・パラ事前キャンプの誘致

事前キャンプの受入れは、広域住民が選手との交流することで国際理解の促進につながるほか、誘致をきっかけに自治体の認知度やイメージが向上することで広域住民が地元で誇りを感じ、地域連帯感が向上するなど、地域の活性化に結びつくものがあることから、各市町の意向を前提に誘致活動に取り組む。

【具体的な内容】

- ・中央競技団体への誘致活動時における広域資源のPR
- ・各市町との連携による事前キャンプ受入れへの協力

イ 地元オリンピック選手の輩出

地元オリンピック選手の存在は、オリンピックを応援する大きな機会となり、自国でのオリンピック開催をより身近に実感できることから、冬季競技を含め、盛岡広域からのオリンピック選手輩出を目指すオリンピック選手育成事業、通称「エイト・オリンピックズ・プロジェクト」に取り組み、施設の充実や大会誘致等の環境整備のほか、地元オリンピック選手を広域住民が一体となって応援する機運を醸成し、広域住民のオリンピックに対する関心を高める。

【具体的な内容】

- ・エイト・オリンピックズ・プロジェクトによる地元のオリンピック有力候補選手の周知・応援・育成

ウ 東京オリ・パラ開催に向けた機運醸成

東京オリ・パラ開催の盛り上がりを大きくするためには、開催都市・開催期間のみならず、盛岡広域から東京オリ・パラを盛り上げ、サポートすることが重要であることから、オリンピック選手等による講演会や競技体験などの交流の場を企画し、東京オリ・パラ開催に向けた機運醸成を図る。

【具体的な内容】

- ・各市町との連携によるイベントの企画運営(カウントダウンイベント等)
- ・東京オリ・パラ開催に向けた機運醸成のための研修会等の開催

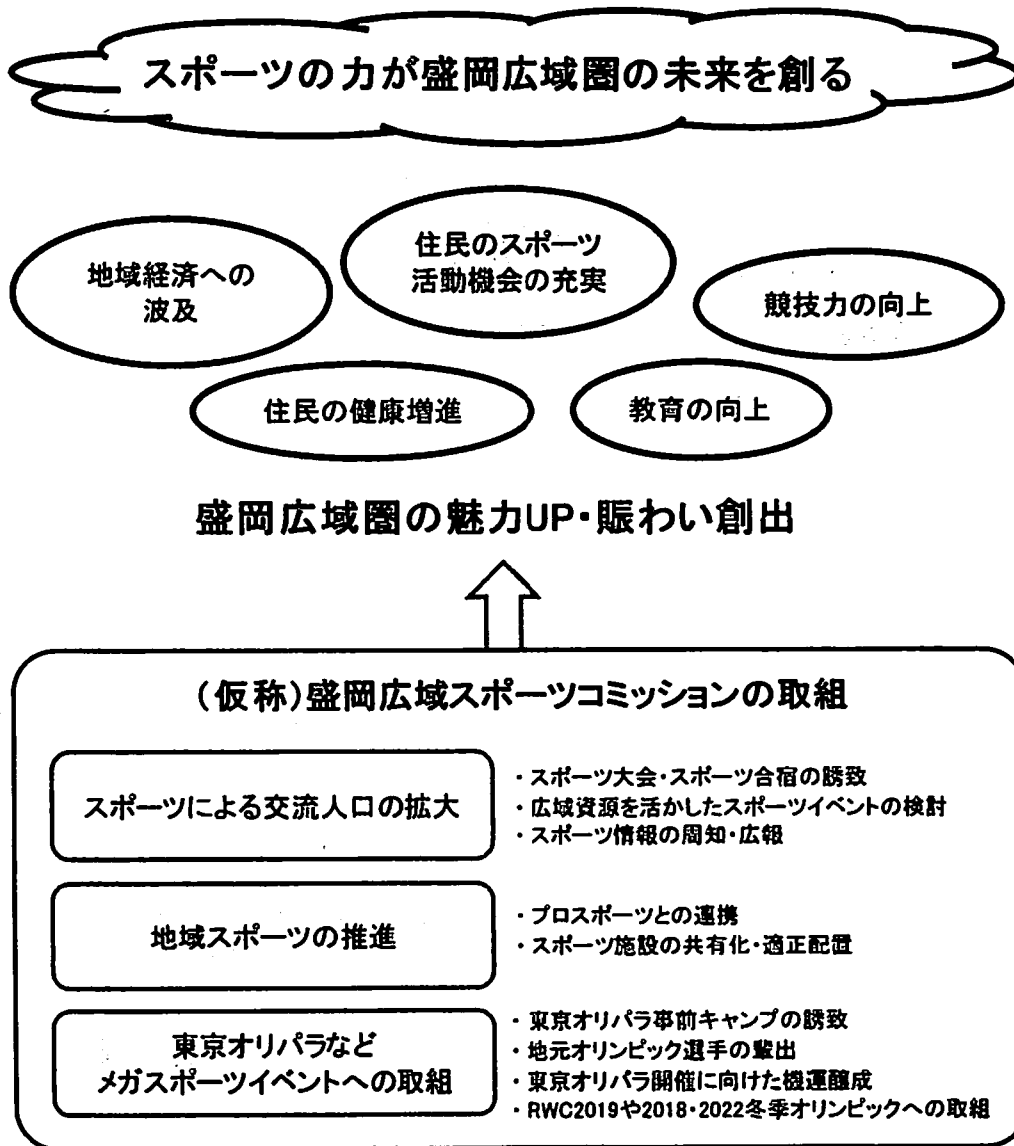
エ RWC2019や2018平昌・2022北京冬季オリンピックへの取組

RWC2019が釜石市で開催されることから、盛岡広域においても公認チームキャンプ、事前キャンプ誘致を含め積極的な機運醸成に取り組む。

また、2018平昌・2022北京冬季オリンピックの事前キャンプ誘致に取り組み、盛岡広域の冬季スポーツ競技の普及・競技力向上を図る。

【具体的な内容】

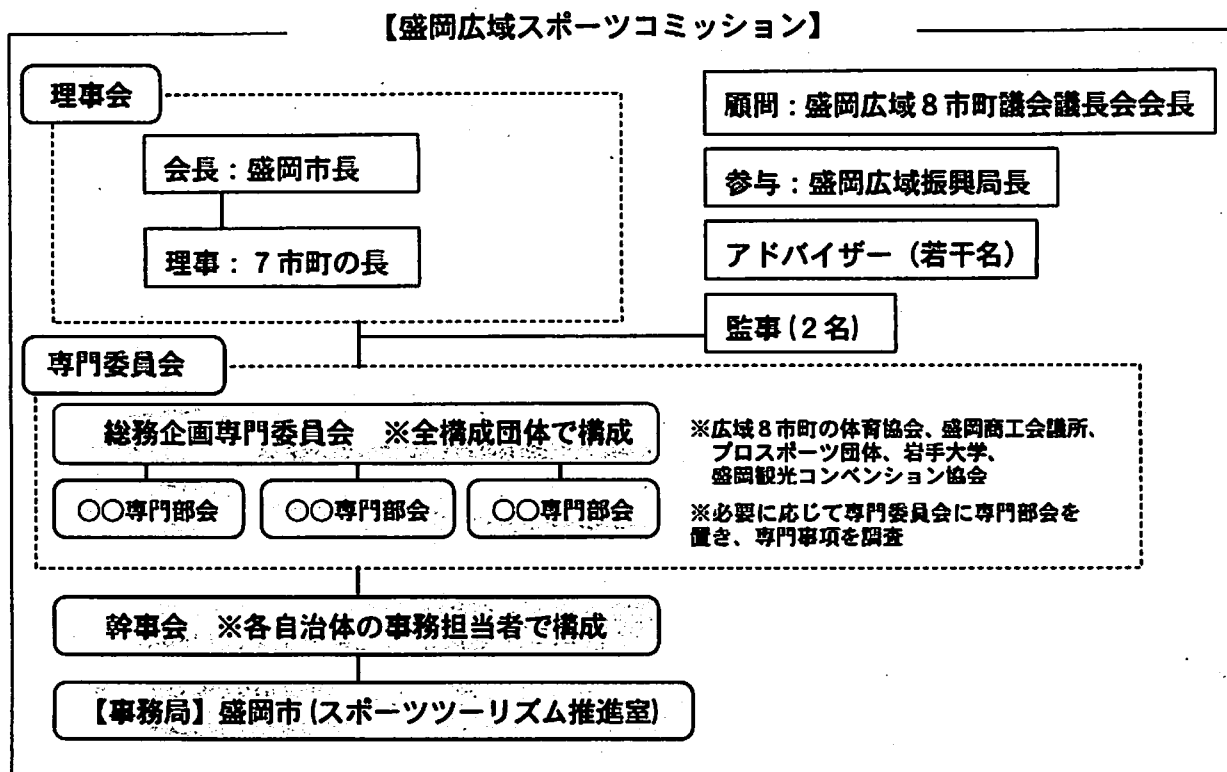
- ・RWC2019の開催に向けた岩手県・釜石市との連携による開催機運の醸成
- ・中央競技団体への誘致活動時における広域資源のPR
- ・各市町との連携による事前キャンプ受入れへの協力



▲基本方針実現に向けた仕組み（イメージ）

6 スポーツコミッション事業推進体制

コミッション設立当初の体制は次のとおりとする。



行政機関：県・市の施策との調整，事前キャンプの誘致交渉

スポーツ団体：地域スポーツの振興，競技力向上（アスリートの育成），アウェーツーリズムの推進

経済団体：スポーツによる交流人口の拡大，企業協賛支援

大学：大学レベルの大会・合宿の誘致，冬季競技の普及・競技力向上に係る協力

観光団体：観光PRや宿泊情報の提供

盛岡広域スポーツコミッション平成 29 年度事業計画（案）

盛岡広域スポーツツーリズム推進計画に基づき、平成29年度は次の事業に取り組むものとする。

基本的施策 1 スポーツによる交流人口の拡大

(1) スポーツ大会・スポーツ合宿の誘致【主要事業】

スポーツ大会やスポーツ合宿の誘致にあたっては、中央競技団体のほか、大学や社会人実業団チーム等に対し、スポーツコミッション組織の構成団体それぞれが保有している既存の人脈・交渉ルートを活用するほか、新たな人脈・交渉ルートの構築を進め、ターゲットを明確にした戦略的な誘致活動に取り組む。

【具体的な内容】

- ・各市町等の意見を反映した誘致交渉先の選定
- ・競技団体、大学、社会人実業団チームへの積極的な誘致活動
- ・競技団体等のニーズに対する広域での対応（スポーツ施設利用の調整等）
- ・スポーツツーリズムパンフレットの作成及びパンフレット活用による周知
- ・日本スポーツツーリズム推進機構（JSTA）への継続加入及びセミナー参加による先進事例等の情報収集

(2) 広域資源を活かしたスポーツイベントの検討

これまでも各市町が地域特性や資源を生かして開催しているマラソン大会等のスポーツイベントを更に盛り上げるため、既存のスポーツイベント同士をつなぐことにより互いのイベントに参加者を呼び込み、交流人口の拡大を図る仕組みを検討する。

【具体的な内容】

- ・既存のスポーツイベント同士を活用したコラボレーション企画の検討（例 広域圏内のマラソン大会等のイベントに複数参加した場合に景品をプレゼントする）

(3) スポーツ情報の周知・広報

盛岡広域のスポーツ施設やスポーツイベント情報を集約し、盛岡広域のスポーツ環境を多様な媒体を用いて積極的にPRし、盛岡広域圏外からのスポーツ合宿やスポーツイベントに呼び込む。

【具体的な内容】

- ・盛岡広域のスポーツ施設やイベント情報を掲載したパンフレットの作成
- ・ホームページを活用した盛岡広域情報の発信

基本的施策 2 地域スポーツの推進

(1) プロスポーツとの連携

岩手・盛岡で活動しているBリーグの岩手ビッグブルズやJリーグのグルージャ盛岡など、地域のスポーツ資源であるプロスポーツチームへの支援を通じて連携を図り、プロスポーツチームの活躍や広域住民と選手とのふれ合いをきっかけとした地域の活性化に取り組む。

【具体的な内容】

- ・プロスポーツによるスポーツ教室や地域スポーツ大会への参加による広域住民との交流促進

(2) スポーツ施設の共有化・適正配置【主要事業】

各市町が整備しているスポーツ施設を広域内で共有する仕組みづくりや、広域内のスポーツ施設の適正配置による効率的なスポーツ環境の整備を検討する。

【具体的な内容】

- ・広域住民の意向調査によるスポーツ環境ニーズの把握
- ・効率的かつ効果的なスポーツ施設の配置を図るための検討

基本的施策3 東京オリ・パラなどメガスポーツイベントへの取組

(1) 東京オリ・パラ事前キャンプの誘致【主要事業】

各市町の意向を前提に誘致活動に取り組む。

【具体的な内容】

- ・中央競技団体への誘致活動時における広域資源のPR

(2) 地元オリンピック選手の輩出【主要事業】

盛岡広域からのオリンピック選手輩出を目指すオリンピック選手育成事業、通称「エイト・オリンピックズ・プロジェクト」に取り組み、地元オリンピック選手を広域住民が一体となって応援する機運を醸成し、広域住民のオリンピックに対する関心を高める。

【具体的な内容】

- ・エイト・オリンピックズ・プロジェクトによる地元のオリンピック有力候補選手の周知・応援・育成の仕組みづくり
周知：各市町の広報紙やホームページ、チラシ・ポスターによる周知
応援：選手が出場する大会情報の周知、パブリックビューイングによる応援
育成：オリンピック選手によるスポーツ教室の開催

(3) 東京オリ・パラ開催に向けた機運醸成

盛岡広域から東京オリ・パラを盛り上げサポートするため、オリンピック選手等による講演会や競技体験などの交流の場を企画し、東京オリ・パラ開催に向けた機運醸成を図る。

【具体的な内容】

- ・東京オリ・パラ開催に向けた機運醸成のための研修会等の開催

(4) RWC2019 や 2018 平昌・2022 北京冬季オリンピックへの取組

RWC2019 釜石開催に向けた機運を高めるため、広域住民に対する周知を図る。

RWC2019 の公認チームキャンプ、事前キャンプの誘致や冬季オリンピックの事前キャンプ誘致にあたっては、各市町の意向を前提に誘致活動に取り組む。

【具体的な内容】

- ・ラグビーワールドカップ釜石開催準備委員会が実施する事業への連携・協力
- ・中央競技団体への誘致活動時における広域資源のPR